

# 山田



①



②



③

①がれきの中から出火し黒煙が上がり始める(長崎地区より撮影・3月11日午後4時31分) ②溢谷力さん提供 ③火災は自動車のカンニンなどに引火し、深夜になっても爆発を繰り返しながら延焼(八幡町・12日午前2時30分) ③辺り一面が焼け野原となった役場前(同・12日午後3時18分) =佐々木一彦さん提供=



津波と火災により被害を受けた山田地区中心部(3月23日上空より撮影)

は沢水をせき止めたり防火水槽のがれきを取り除いたりしながら、必死の消火活動を続けた。

火災の勢いは深夜になっても収まらない。八幡町では役場を囲むように炎が迫ってきたため、保健センターや中央公民館などに避難していた1000人を超える避難者は、自衛隊車両などにより関口を通して豊間根地区に避難。また、山田中学校に避難していた住民は、長崎地区から山伝いに火災が延焼してきたため、歩いて山田高校へ逃れた。翌日も火災が続いたが、自衛隊の消防車やヘリからの放水も行われ、山田地区の火災は夕方には徐々に収束していった。

田の浜地区では、炎が民家だけではなく山林にも燃え移った。消防車が進入できないため消防団員は小型ポンプを背負い、何度も水を補給しながら山へ向かった。消防団や自衛隊ヘリなどの懸命な消火により、大規模な山火事は免れることができた。

町内では、津波や火災による建物の被害が3304棟(全壊2789棟、大規模半壊208棟、半壊187棟、一部損壊120)。漁業関係では、登録漁船2138隻のうち約1590隻が流出や損壊、養殖施設や作業小屋のほとんどが壊滅的な被害を受けた。

平成23年3月11日14時46分、大地震が山田町を襲った。震度は5弱、マグニチュードは世界最大級の9.0を記録した。

およそ30分後、大津波が襲来。波は防潮堤を超え、町へ流れ込んだ。津波の高さは、山田湾内で8メートル、船越で15メートル、田の浜で18メートル、小谷島では25メートルと推測される。津波の力は、何トンもある防潮堤をいとも簡単になぎ倒すほど強大なものであった。その後、激しい押し波と引き波を何度も繰り返した。

津波の浸水面積は、大沢、山田、織笠、船越、田の浜、大浦の市街地の面積407分のうち約5割にも及ぶ209分にも達した。

また、津波後発生した火災も甚大な被害をもたらした。

山田地区では、長崎と八幡町からほぼ同時に火災が発生。車などへの引火による大きな爆発を繰り返しながら、がれき伝いに延焼した。消防団員が消火活動を行うが、がれきが消防車の行く手をさえぎるため、消火栓からホースを何本もつなげて放水を行った。しかし、津波は町内の水道水をまかなっている水源地の施設をも破壊。各地区の高台にある配水池にくみ上げられていた水が無くなり、水の供給が途絶えた。それでも団員ら